

(技術名) 促成栽培向け品種「美らへちま」は普通栽培にも適する							
(要約) 促成栽培向けに開発された品種「 <u>美らへちま</u> 」は、 <u>普通栽培</u> においても従来品種と比べて可販果率が安定して高く、かつ可販果収量が同等以上であることから、普通栽培にも適する。							
農業研究センター・野菜花き班				連絡先	098-840-8506		
部会名	野菜・花き	専門	育種	対象	へちま	分類	指導
普及対象地域							

[背景・ねらい]

本県のへちまの作型は、露地で3～4月に定植する普通栽培や、施設で10～11月に定植する促成栽培等がある。果肉が加熱等で褐変しない（以下、無褐変系）「美らへちま」は、促成栽培に適する品種として育成されたが、普通栽培を望む生産者も多い。そこで、無褐変系の「プリンス」や「味枕」、褐変する「サザンへちま」など、従来品種との比較により「美らへちま」の普通栽培における適応性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「美らへちま」の果長は、従来の無褐変系2品種より長い。また、果重は比較したどの品種とも同程度である（表1）。なお、果長、果重ともに収穫時期による変動はほとんどない（データ省略）。
2. 「美らへちま」は曲がり果の発生が少なく、供試した従来品種のいずれと比べても可販果率が高い（表1）。また、栽培期間中の可販果率は、安定して90%以上である（図1）。
3. 「美らへちま」の可販果収量は、従来の無褐変系2品種より多く、「サザンへちま」と比較しても同程度である（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. へちまの普通栽培において、品種選定等に資する情報として農家指導時に活用できる。
2. 本データは、農業研究センター本所のジャーガルにて、県栽培要領に準じて栽培し得られたものである。果実サンプルは、果径5～6cmを目安に1日1回収穫した。

[具体的データ]

表1 普通栽培における果実特性の品種間差異

	果長 (cm)	果重 (g)	可販果率と規格外要因内訳 ¹ (%)			
			可販果	曲がり	長不足	複合
美らへちま	18	304	94	1	5	0
プリンス	16	280	82	0	18	0
味枕	16	286	69	0	30	1
サザンヘチマ	21	298	80	18	1	1

※味枕とサザンヘチマの可販果率及び要因内訳は単年度の値で、その他の数値は2年平均値を示す。

1 県出荷基準に準じ、3cm以上の曲がり「曲がり」、果長15cm未満で「長不足」、両方の場合を「複合」とする。

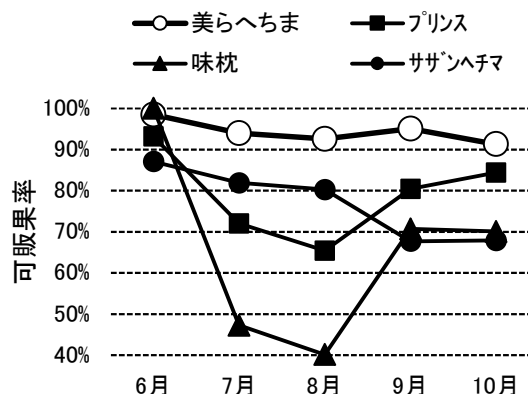


図1 普通栽培における可販果率推移の品種間差異
※味枕とサザンヘチマは単年度の値、他2品種は2年平均値を示す。

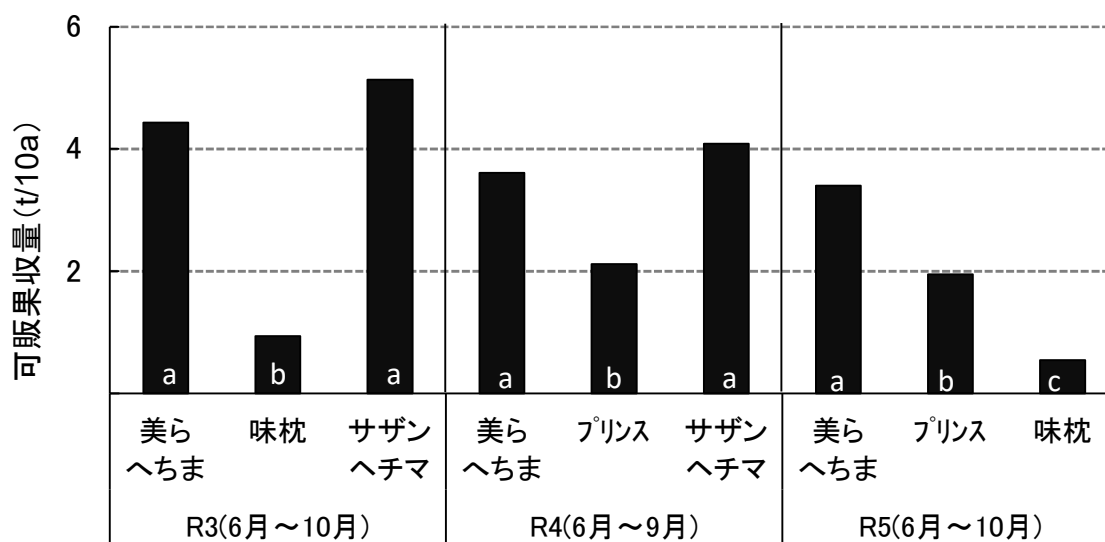


図2 普通栽培における可販果収量の品種間差異

※ 同一年度内の異なるアルファベットは、多重比較検定(Tukey-Kramer)による有意差があることを示す。

[その他]

課題 ID : 2018 農 001、2022 農 001

研究課題名 : ヘチマのオンデマンド育種、露地ヘチマの品種選定

予算区分 : 沖縄振興特別推進交付金(先端技術を結集した園芸品目競争力強化事業、労働力不足と環境負荷軽減に対応する沖縄型園芸農業技術)

研究期間(事業全体の期間) : 2021～2023 年度 (2018～2026 年度)

研究担当者 : 長浜隆市、波多野有咲、棚原尚哉

発表論文等 : なし